2015年度傷害報告
集計結果

（一財）東京都スキー連盟
総務本部　安全対策部

２０１５年度の傷害報告統計から

今年度は2014年度に比し受講者数が1,500名程増加したにも関わらず、今年度の受傷率は０.３０％で (2014 ; 0.33%、2013 ; 0.34%) 減少傾向にある。

今年度の特徴として女性の４０歳以上の傷害事故が５８％、５０歳以上では４７％を占め、圧倒的な傷害発生率となっている。スキーのレベルでは中・上級者がほぼ同じ同数でしかも８２％が講習中、緩・中斜面で生じている。
男性を含めた全体でも５０歳以上では６９％、４０歳以上では８５％を占める状況であった。

傷害部位では膝と肩の損傷に傷害発生が多く、膝は靭帯損傷が、肩は脱臼・骨折と特徴的なケガとなっている。

高齢と云われる年代の傷害は長期間の治療を要することからも、傷害の発生しないような取り組みが必要と思われる。

【2015年度傷害事故集計表】

2015年度　提出483件　受講者数 6,299名　受傷者数 19名　受傷率 0.30%

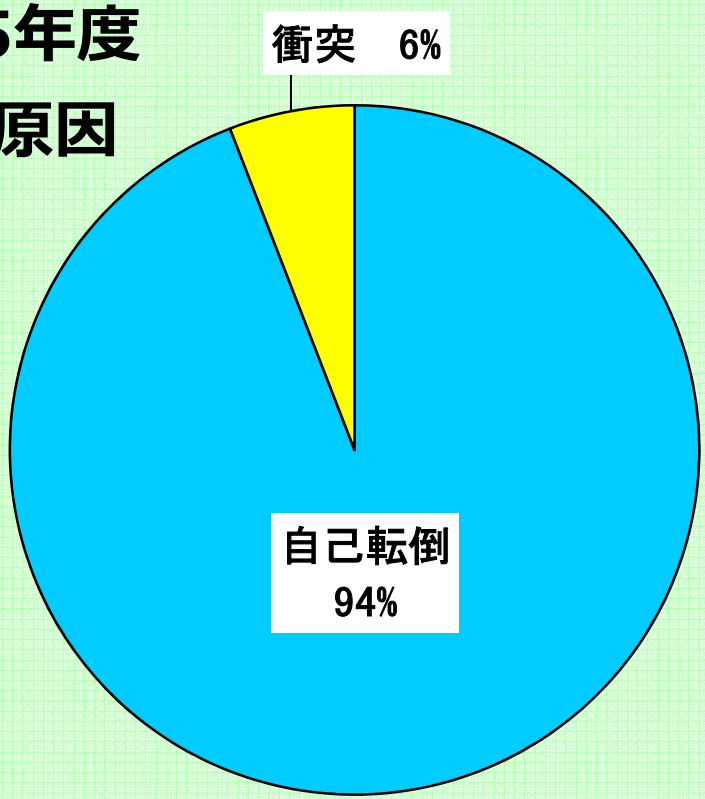
設　問	No.		人数	No.		人数	No.		人数	No.		人数	No.		人数	合計	無回答数
傷害保険	01	自己傷害保険	5	02	対人賠償	0	03	対人対物賠償	2		自己＋対人	2		自己＋対人対物	6	21	-21
					対物賠償	4					自己＋対物	2					
性別	04	男性	5	05	女性	14										19	-19
年令	06	6歳未満	0	07	7-12	0	08	13-15	1	09	16-20	0	10	21-25	0		
	11	26-30	1	12	31-40	1	13	41-50	3	14	51-60	9	15	61歳以上	4	19	-19
技術レベル	16	指導者	1	17	上級者	6	18	中級者	10	19	初級者	0	20	初心者	2	19	-19
体格	21	大きい	1	22	普通	14	23	小さい	4							19	-19
滑走日数	24	0-3	6	25	4-6	7	26	7-10	6	27	11-15	0	28	16-20	0		
	29	21-30	0	30	31日以上	0										19	-19
休養	31	充分	18	32	不充分	1										19	-19
準備体操	33	充分	18	34	不充分	1										19	-19
傷害名	35	捻挫	2	36	骨折	4	37	脱臼	2	38	切創	0	39	打撲	4		
	40	靭帯損傷	4	41	擦過傷･刺創	3										19	-19
傷害場所	42	前頭部	0	43	後頭部	0	44	顔面	1	45	頸部	1	46	肩部	4		
	47	上腕部	1	48	前腕部	0	49	手指部	1	50	胸部	1	51	背部	0		
	52	腹部	1	53	腰部	1	54	大腿部	1	55	膝部	8	56	下腿部	2		
	57	足首	1	58	その他	1										24	-19
全治日数	59	7日未満	2	60	8-14	2	61	15-21	2	62	22-30	6	63	31-60	4		
	64	61-90	0	65	91以上	0	66	未受診	2							18	-18
発生状況	67	講習中	16	68	自由時間	2	69	練習中	1	70	競技中	0				19	-19
発生時刻	71	9時まで	0	72	12時まで	9	73	15時まで	9	74	17時まで	1	75	ナイター	0		
	76	その他	0													19	-19
雪質	77	粉雪	3	78	湿雪	2	79	新雪	2	80	深雪	0	81	ザラメ	1		
	82	アイスバーン	1	83	踏み固めた雪	8	84	溶けかけた雪	2	85	その他	0				19	-19
斜面の傾斜	86	緩斜面	6	87	中斜面	11	88	急斜面	1							18	-18
斜面の状況	89	スムーズ	10	90	ｷﾞｬｯﾌﾟ･こぶ	6	91	ラフ	3	92	深雪	0				19	-19
ｹﾞﾚﾝﾃﾞ状況	93	混雑	4	94	普通	8	95	すいていた	6							18	-18
ｹﾞﾚﾝﾃﾞ整備	96	良い	5	97	普通	10	98	悪い	3							18	-18
原因	99	自己転倒	16	100	衝突	1										17	-17
自己転倒	101	回転失敗	13	102	人･物の回避	3	103	ｽﾋﾟｰﾄﾞ･ｵｰﾊﾞｰ	0	104	技術不足	0				16	0
衝突	105	自分から	0	106	衝突された	2										2	-1
衝突相手	107	人	3	108	物(人以外)	0										3	-1
相手の状況	109	講習中	1	110	自由時間	1	111	練習中	0	112	競技中	0				2	0
ﾋﾞﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ	113	はずれた	9	114	はずれない	8										17	-17
調節方法	115	知っていた	17	116	知らない	1										18	-18
調整者	117	自分で	2	118	販売店	12	119	指導員	2	120	パトロール	0	121	知人･友人	0		
	122	その他･不明	2													18	-18
開放強度	123	強すぎ	0	124	適切	17	125	弱すぎ	0							17	-17
流れ止め	126	ブレーキ	0	127	ストラップ	0	128	その他	0	129	無し	0				0	0

傷害事故報告集計

- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

【受傷原因】

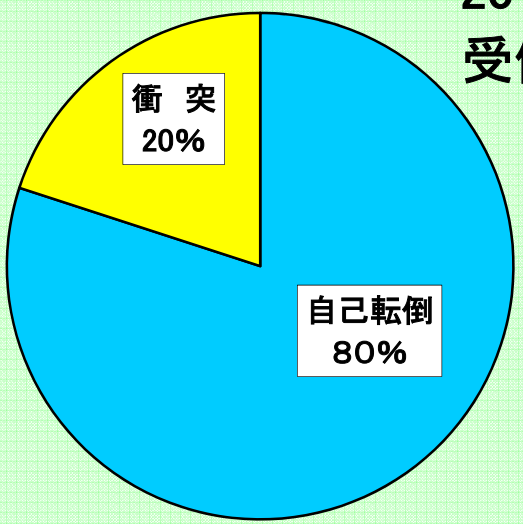
2015年度
受傷原因



昨年度に比し衝突事故が大きく減少している。

衝突事故の減少はみられる一方で、自己転倒比率が増加している。

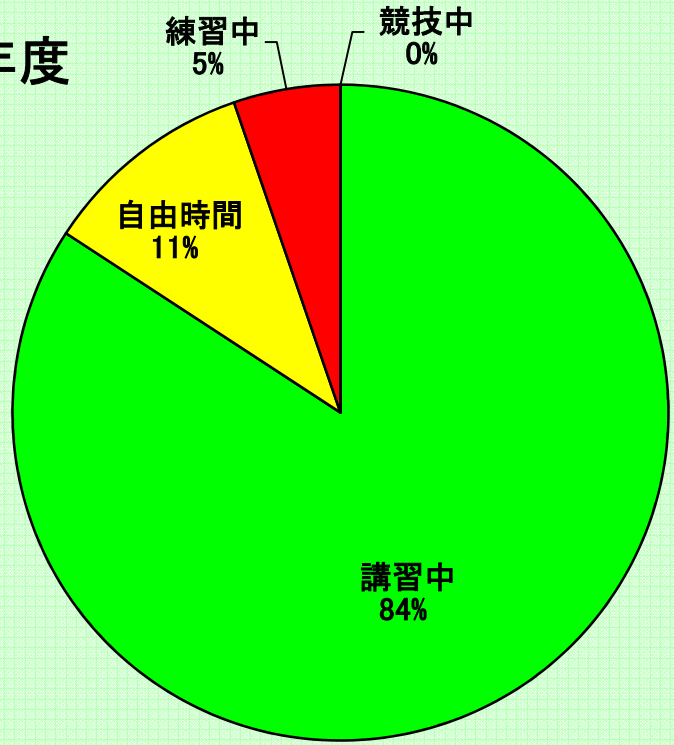
2014年度
受傷原因



「FISの安全10則」を思い出して。

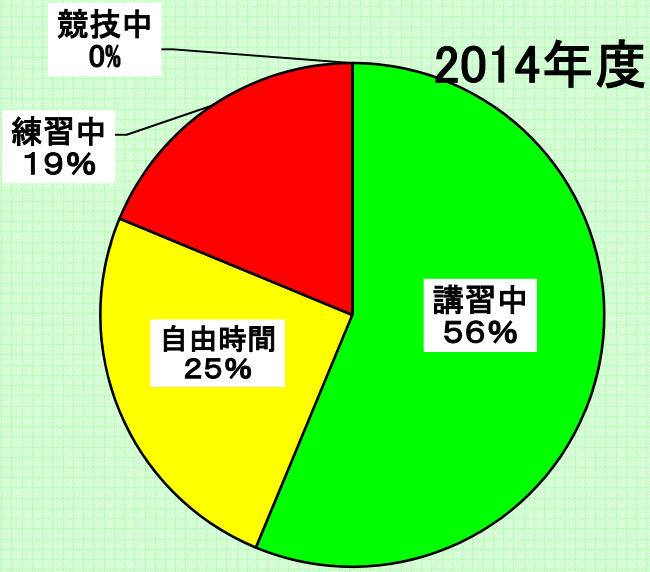
【傷害発生時の状況】

2015年度



・講習中の事故28%も上昇している。

・自由時間や練習中が共に14%減少している。



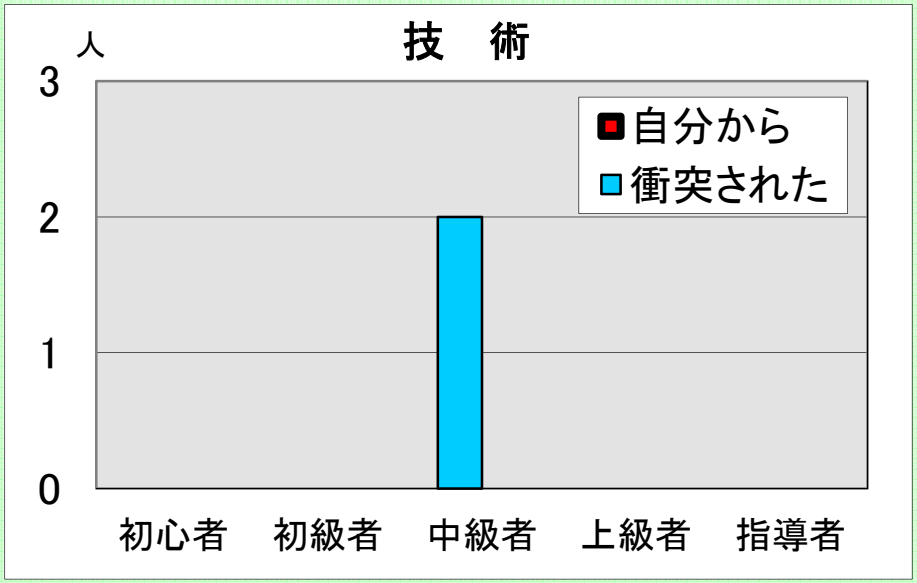
・生徒の安全確保を

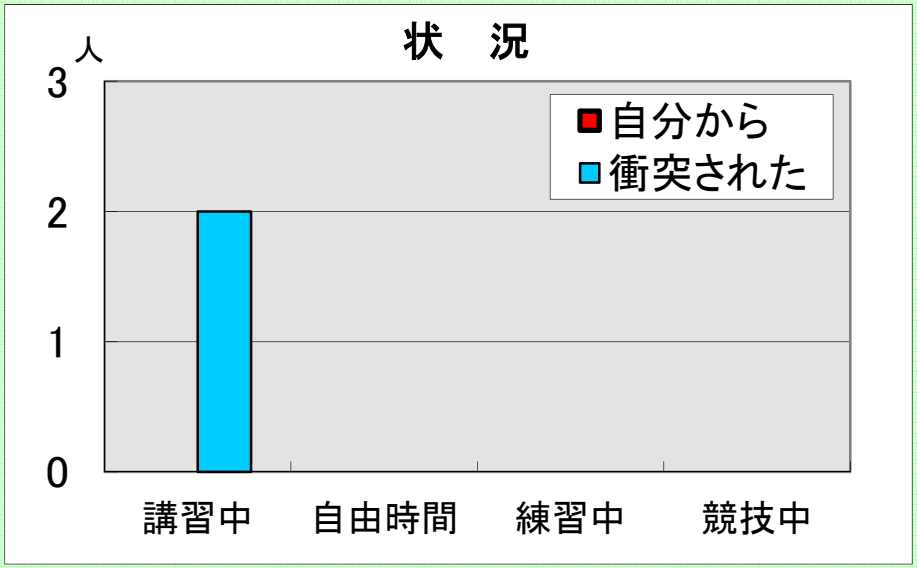
・単独事故の増加からも無理のない技術/安全指導を心掛けて欲しい。

【衝突時の状況】

周囲への注意が疎かに

◎指導者は中級者への基本となる「周囲の状況、後方の確認」を十分するよう指導することが重要。





傷害事故報告集計

- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

【斜度、混雑状況と傷害度数】

混雑していない

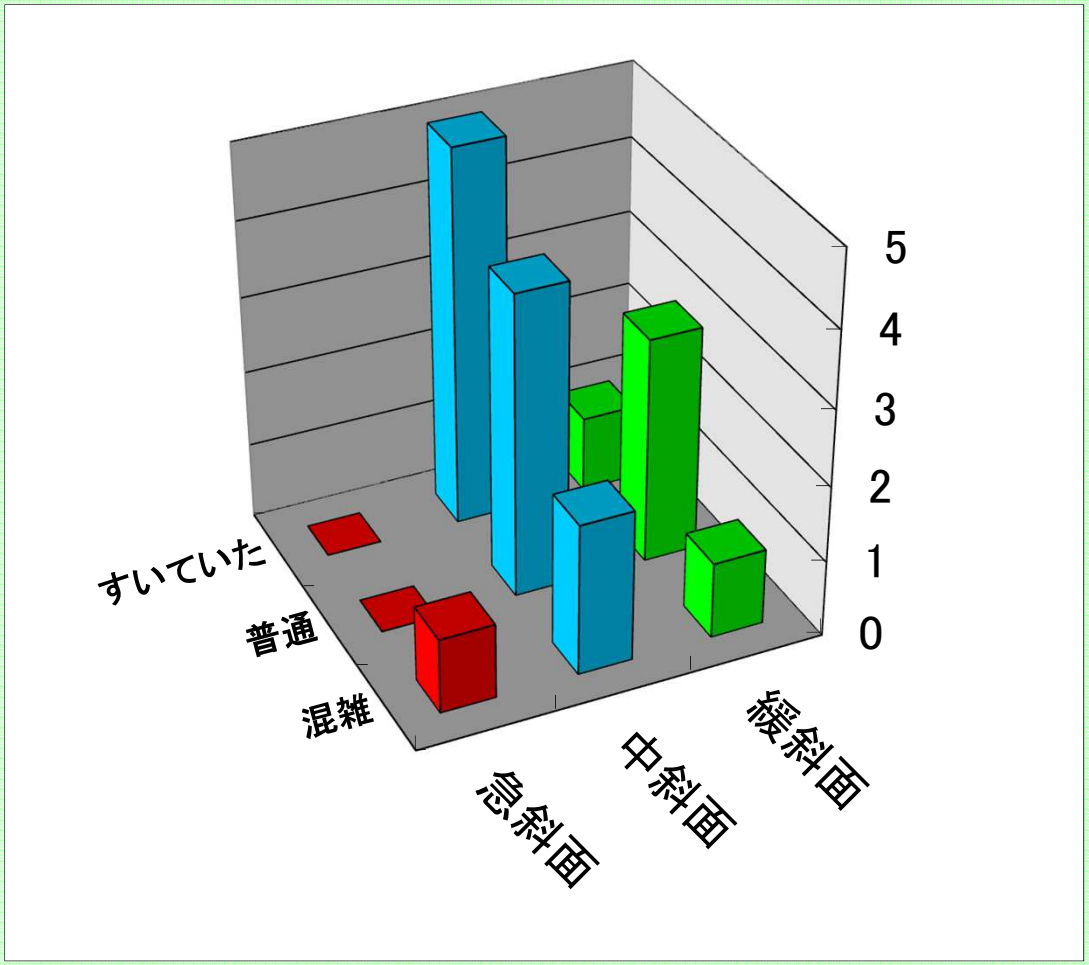
中･緩斜面で事故が多い

正しい状況判断

・課題の与え方

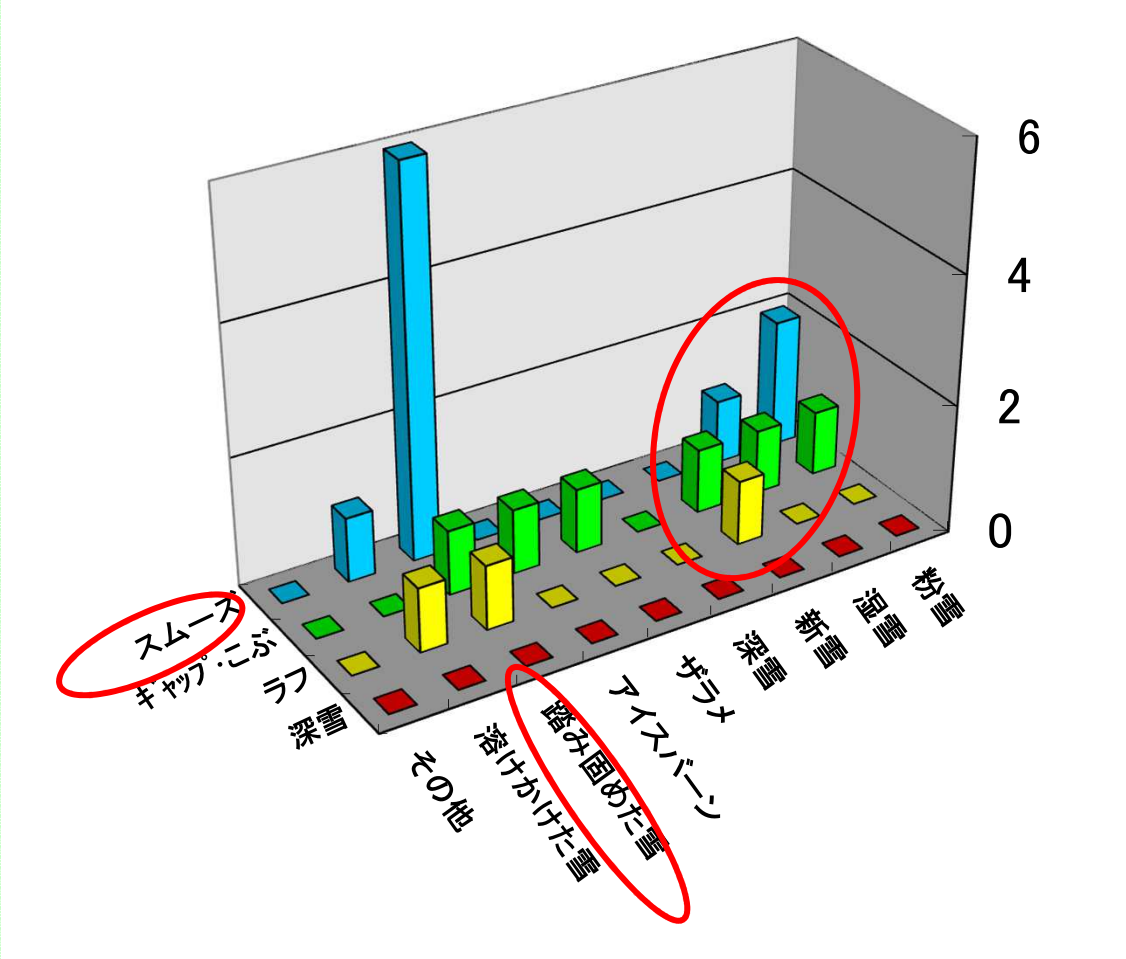
・スタート前の安全確認

・中・緩斜面と云う安心感



【雪質、斜面状況別傷害事故度数】

- 踏み固めたスムーズな斜面で圧倒的に多い
- 新雪・湿雪・粉雪においても傷害の発生がみられる。
  オフピステの危険性の認知が必要

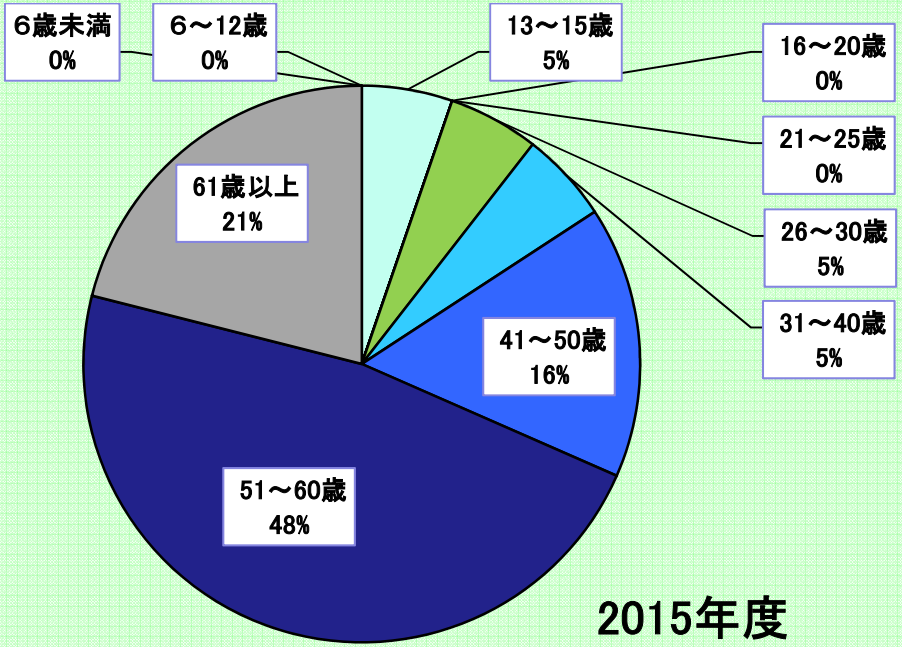


傷害事故報告集計

- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

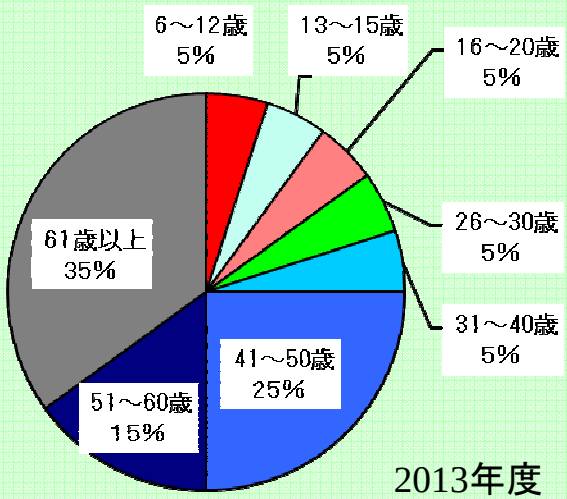
【全受傷者に対する年齢層別比率】

受傷者の年齢構成比で50～60歳代が毎年増加し、2015年度は前年より23%増加した。

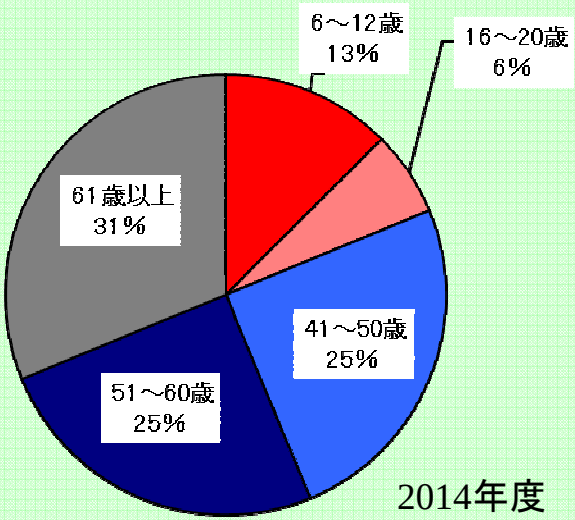


2015年度

受傷者構成比で50歳以上は69%、約7割を占め、40歳以上では85%を占める状況となっている。



2013年度



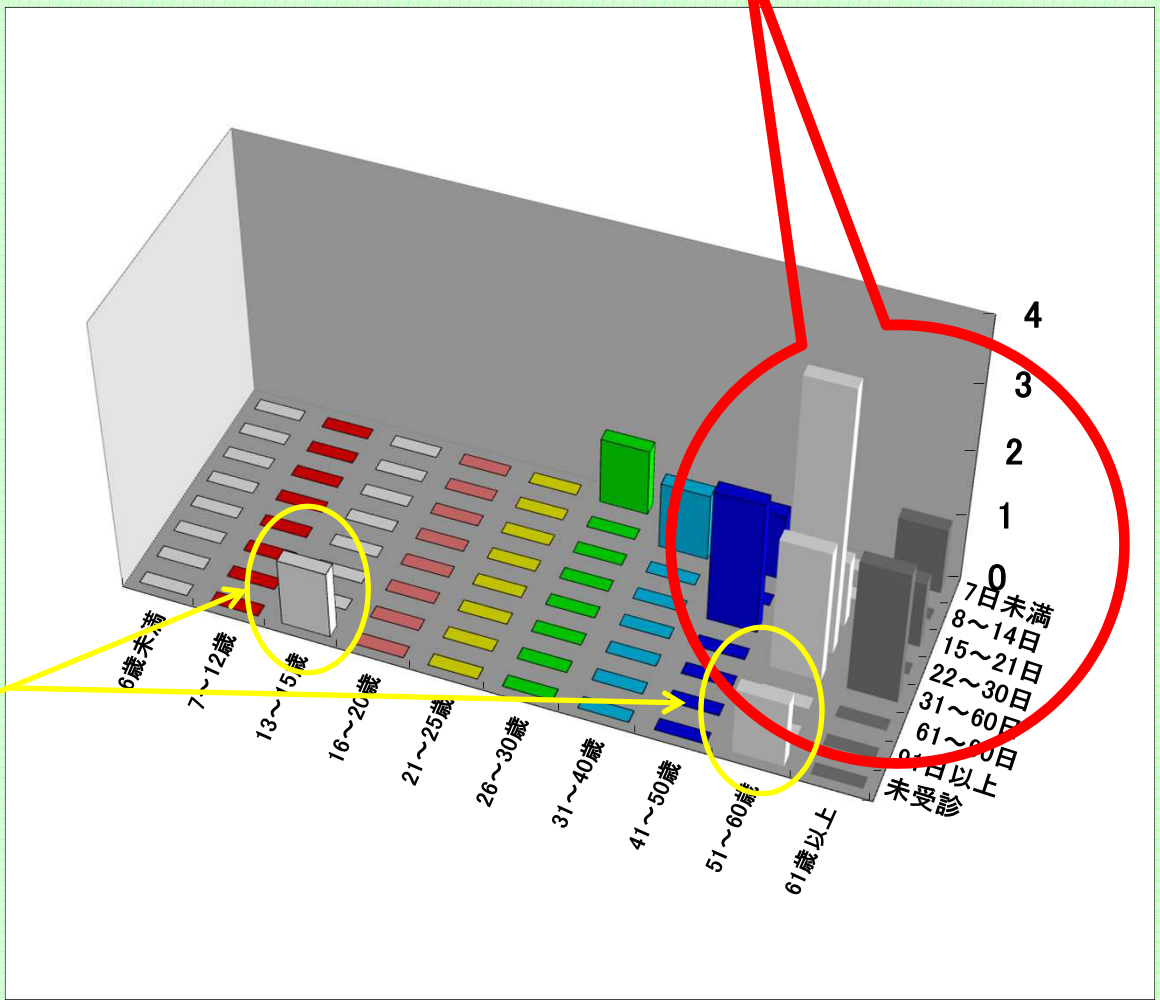
2014年度

【年齢と傷害重度との関係】

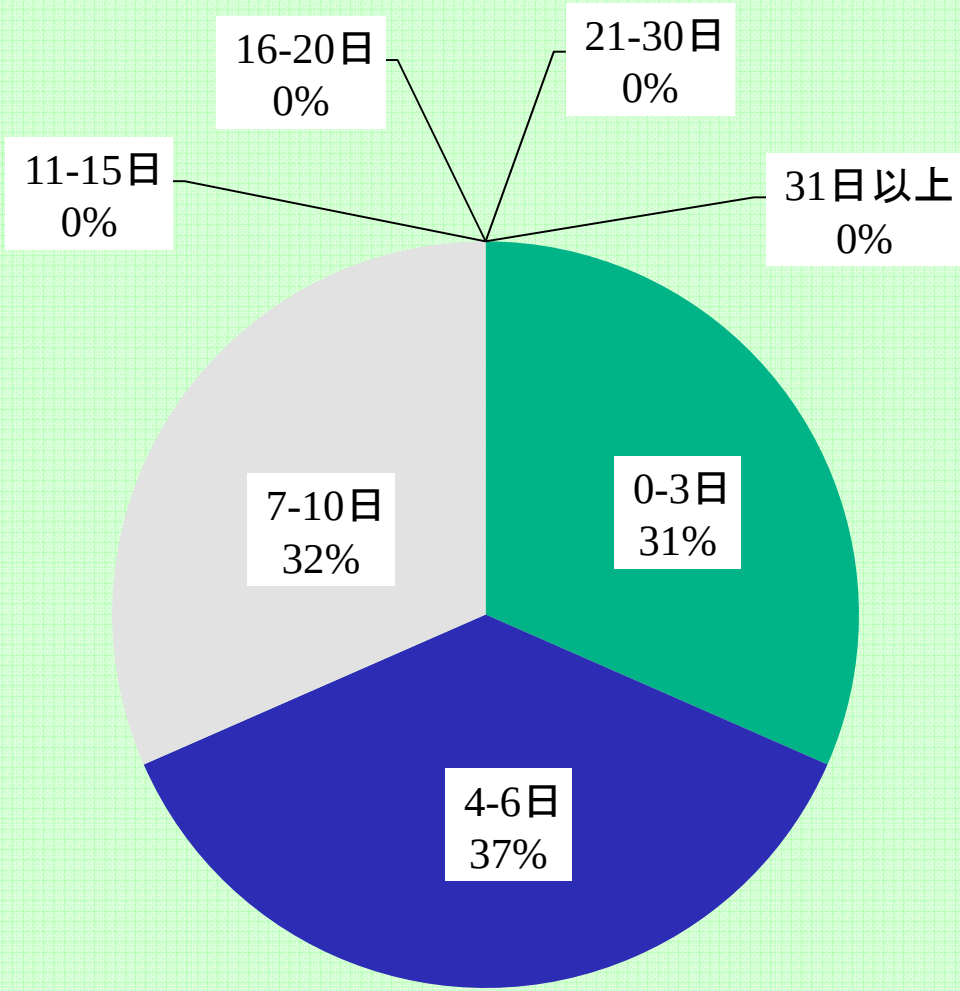
中高年に集中し、傷害の程度が重症化傾向にある。

運動能力･体力
自己の意識（バランス・リカバリー能力）と実際との乖離

未受診者も見られるが出来うるなら帰京後医療機関にかかることをお勧めする。



【受傷までの滑走日数】



滑走日数10日までに
100%の傷害が発生
している

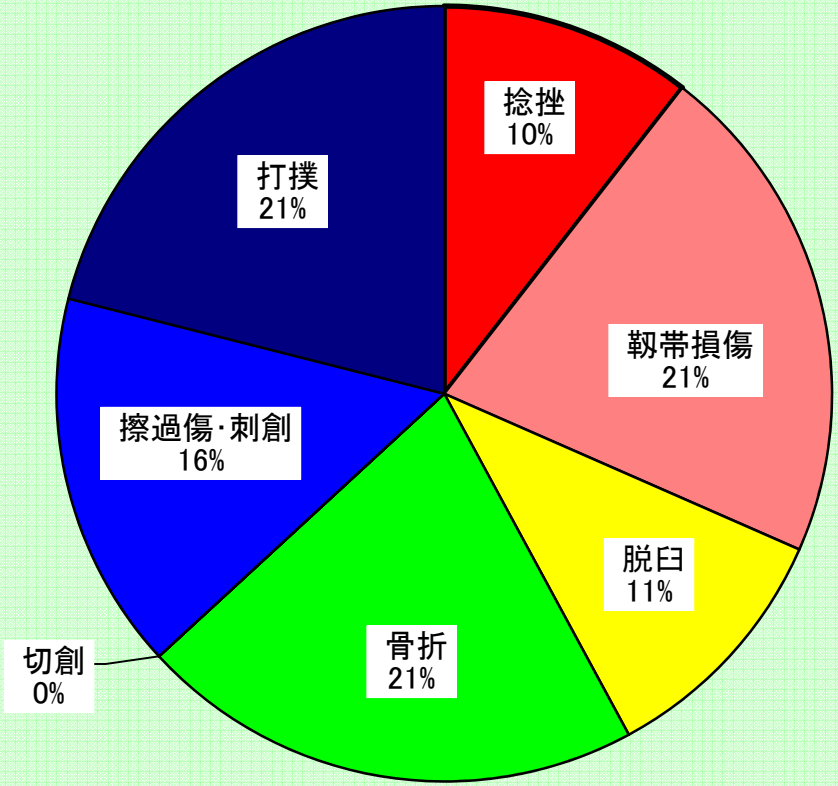
身体が適応するま
で無理をしない、
させない。
思い出しても
気を引き締めて！

傷害事故報告集計

- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

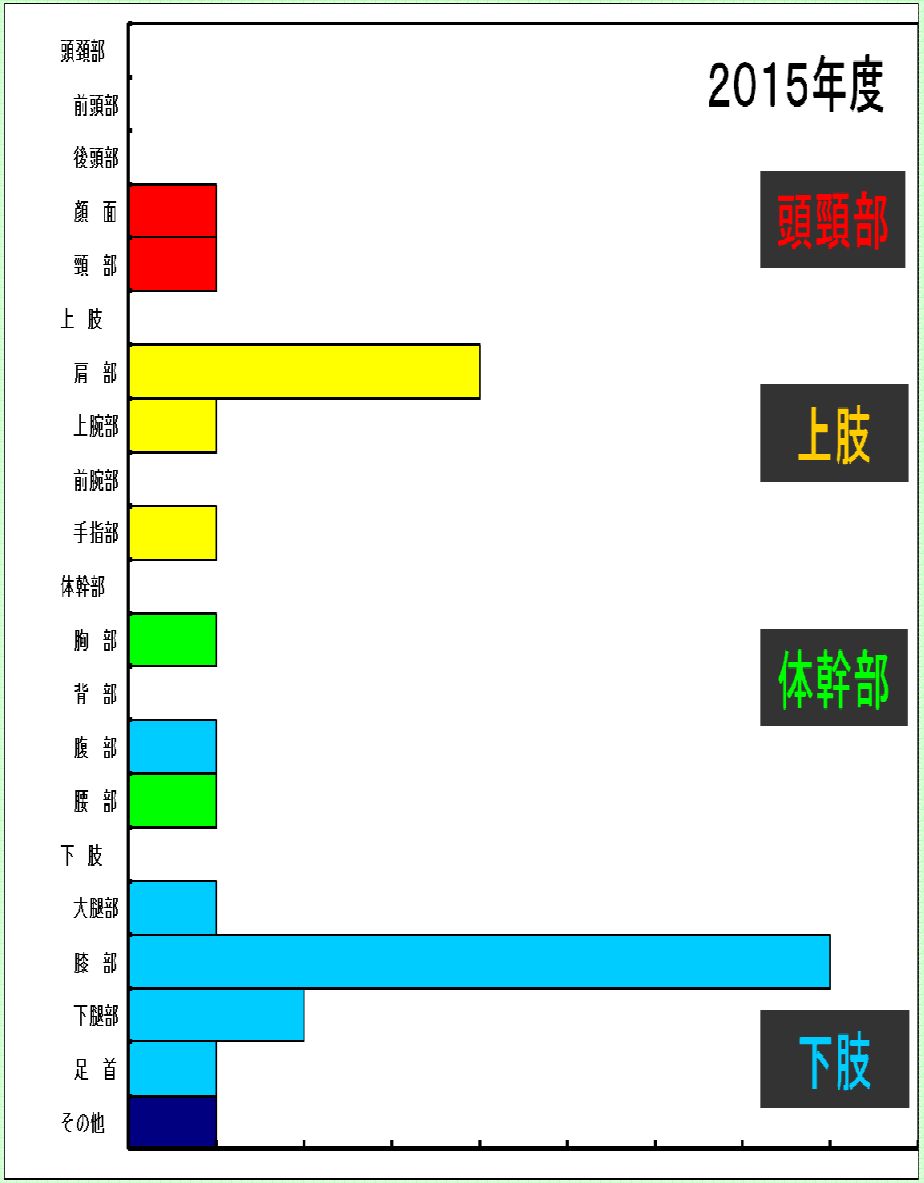
【傷害の種類】

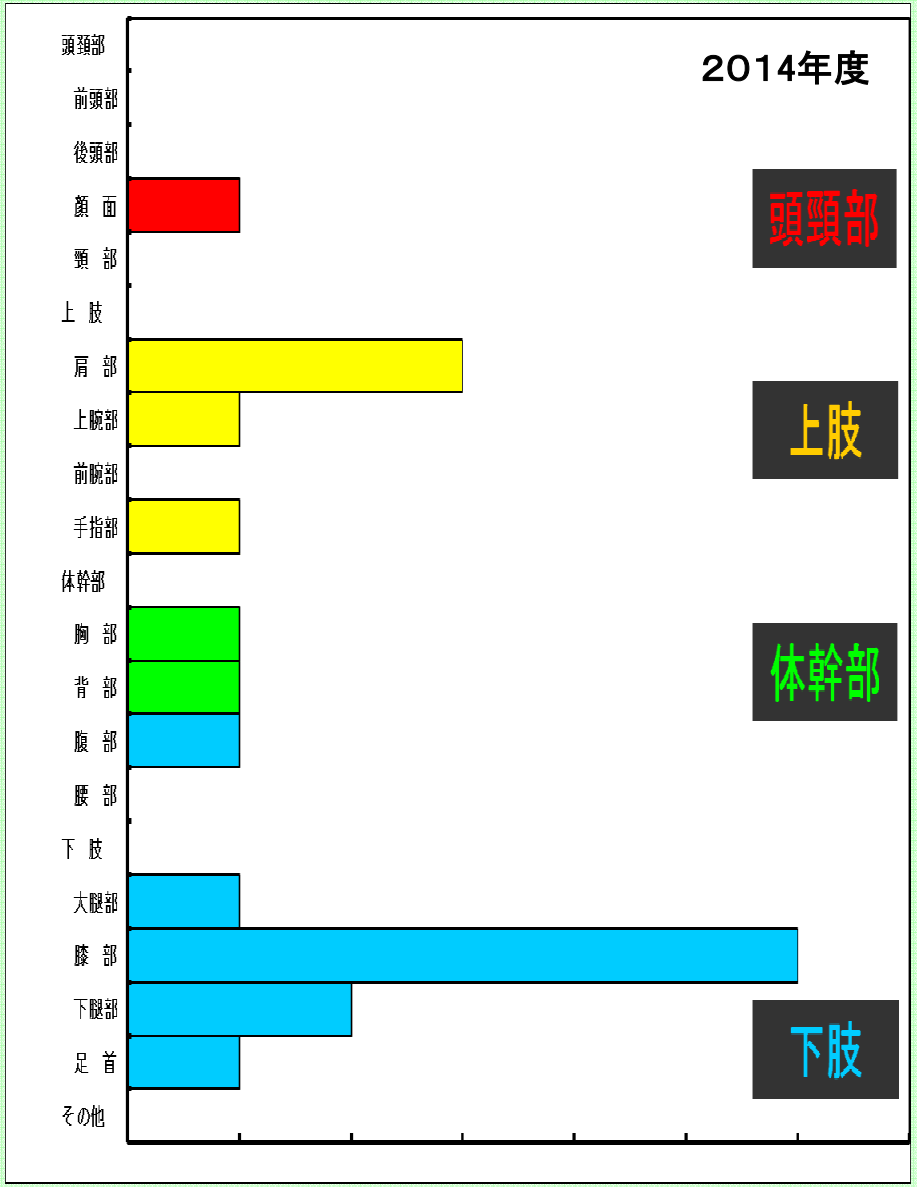
打撲、靭帯周囲の損傷、骨折が比較的多いが、擦過傷・刺創や脱臼、捻挫も10％以上を占めていることからも、傷害は満遍なく発生している。



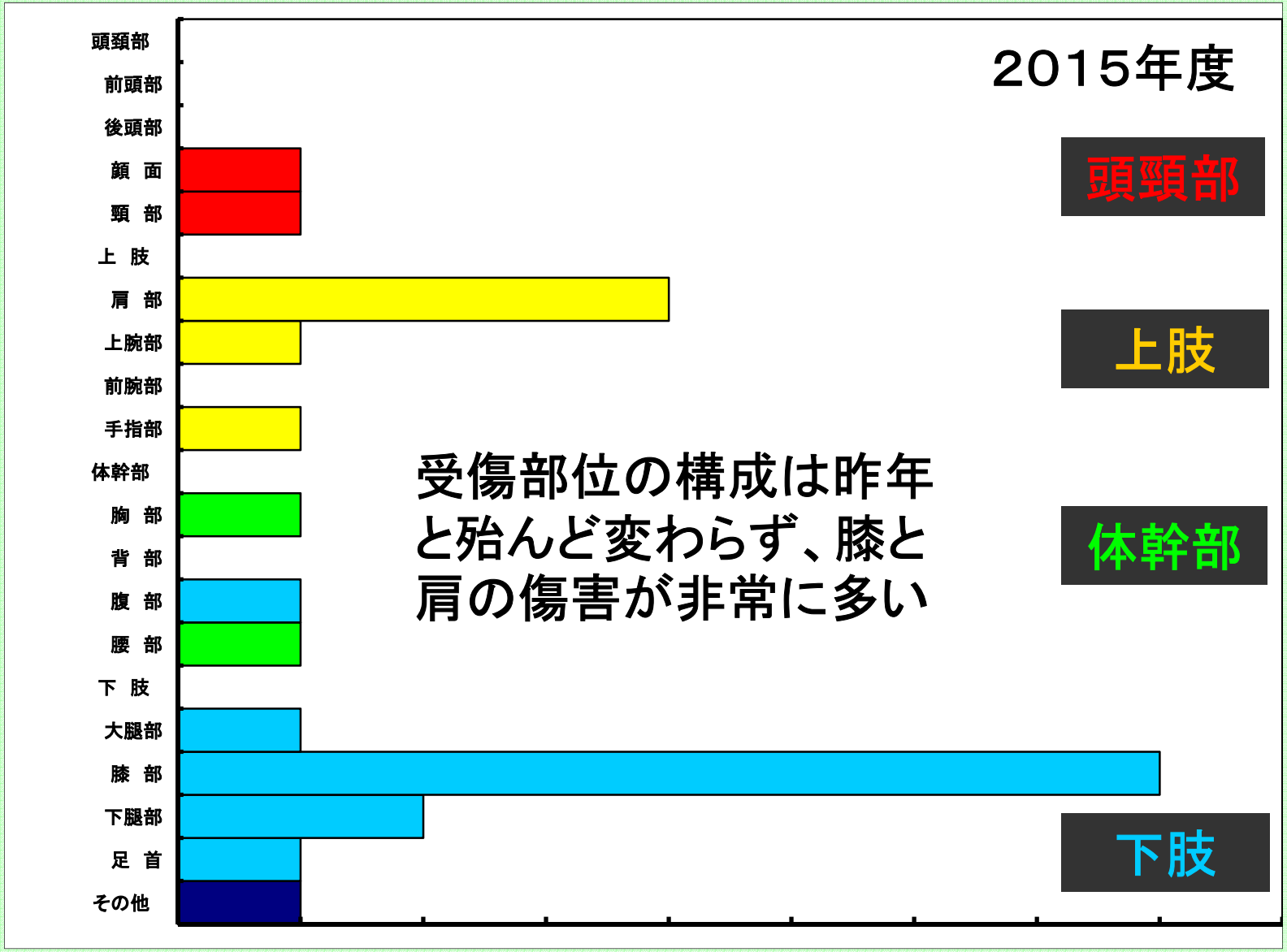
【受傷部位】

2015年度と2014年度比較



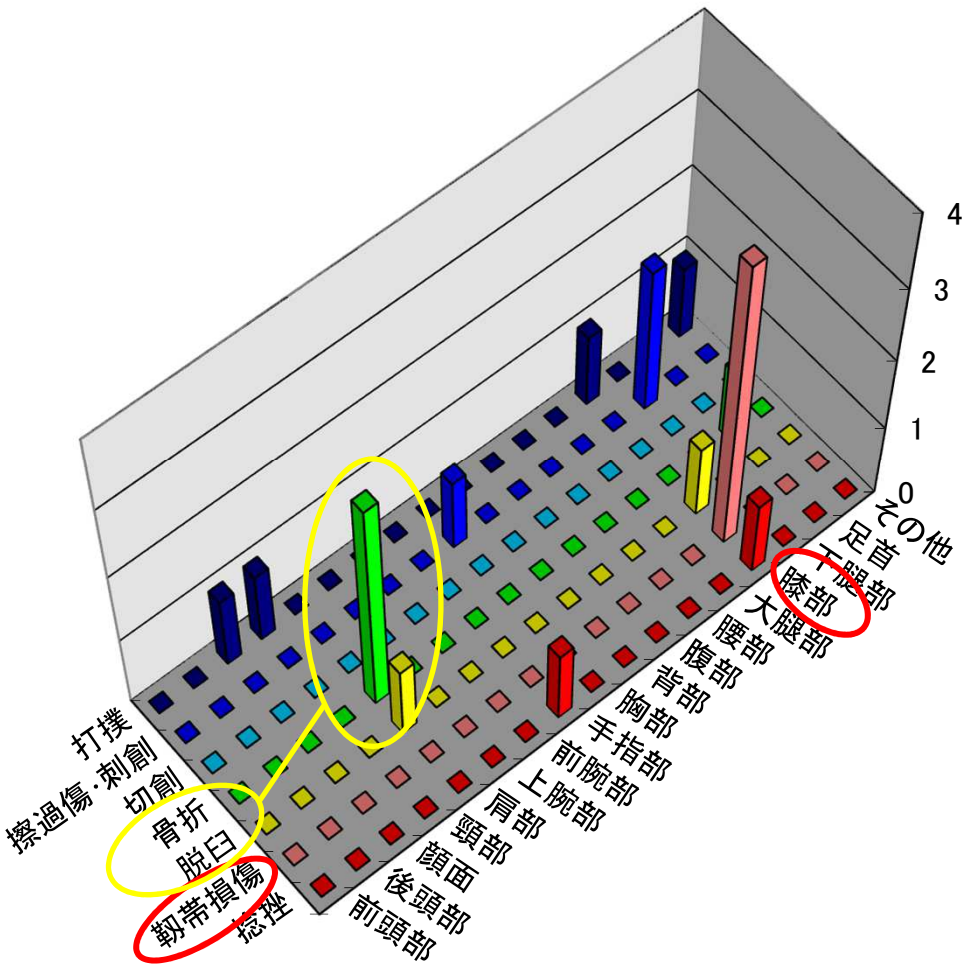


【受傷部位】


2015年度
頭頸部
前頭部
後頭部
顔　面
頸　部
上　肢
肩　部
上腕部
前腕部
手指部
体幹部
胸　部
背　部
腹　部
腰　部
下　肢
大腿部
膝　部
下腿部
足　首
その他
頭頸部
上肢
体幹部
下肢
受傷部位の構成は昨年と殆んど変わらず、膝と肩の傷害が非常に多い

【傷害部位と外傷の種類】

- 膝はねじれによる損傷、靭帯、脱臼、捻挫が多くみられる。
- 肩に関しては脱臼・骨折と傷害の程度が大きい。

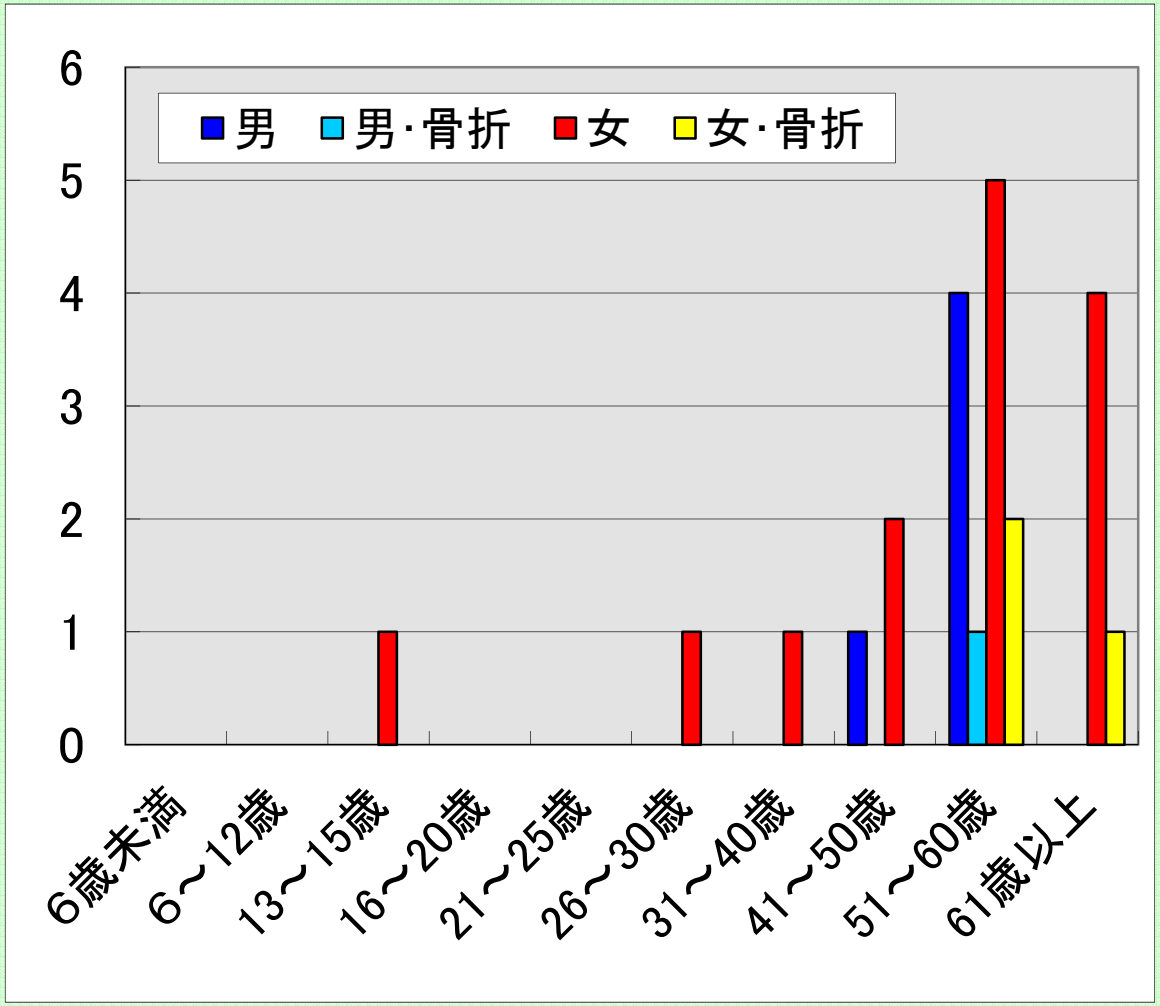


【年齢別、性別の骨折の割合】

2015年度は圧倒的に女性の傷害者が多く発生し、しかも50歳以上の占める割合が50歳以下の約倍となっている。

しかも傷害の程度が骨折など重傷化している。

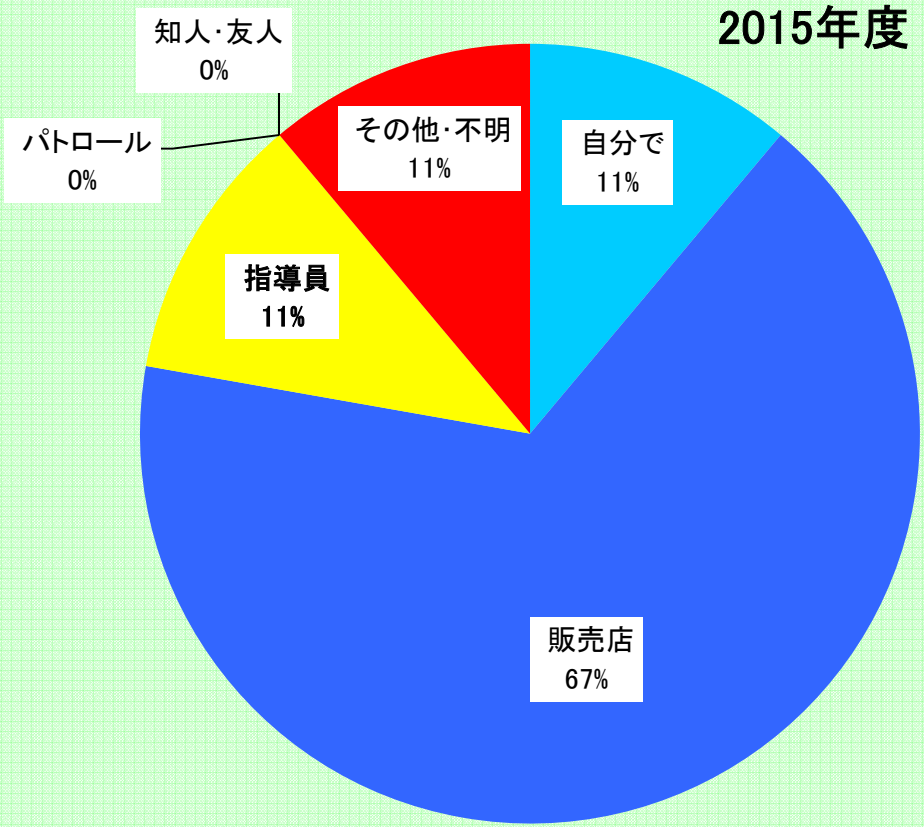
年齢に合わせた運動を提供し、傷害を未然に防ぐ環境を作ることが必要。



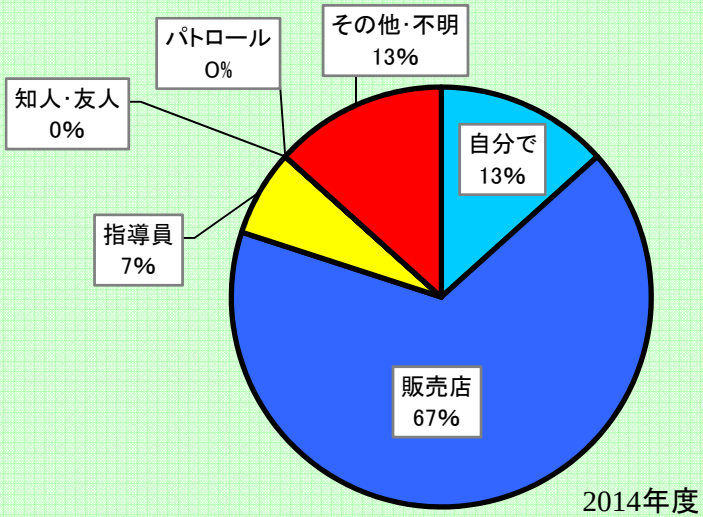
傷害事故報告集計

- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

ビンディングの強度



指導員による調整は後での補償問題が発生した時に問題が生じる可能性があるので注意が必要。

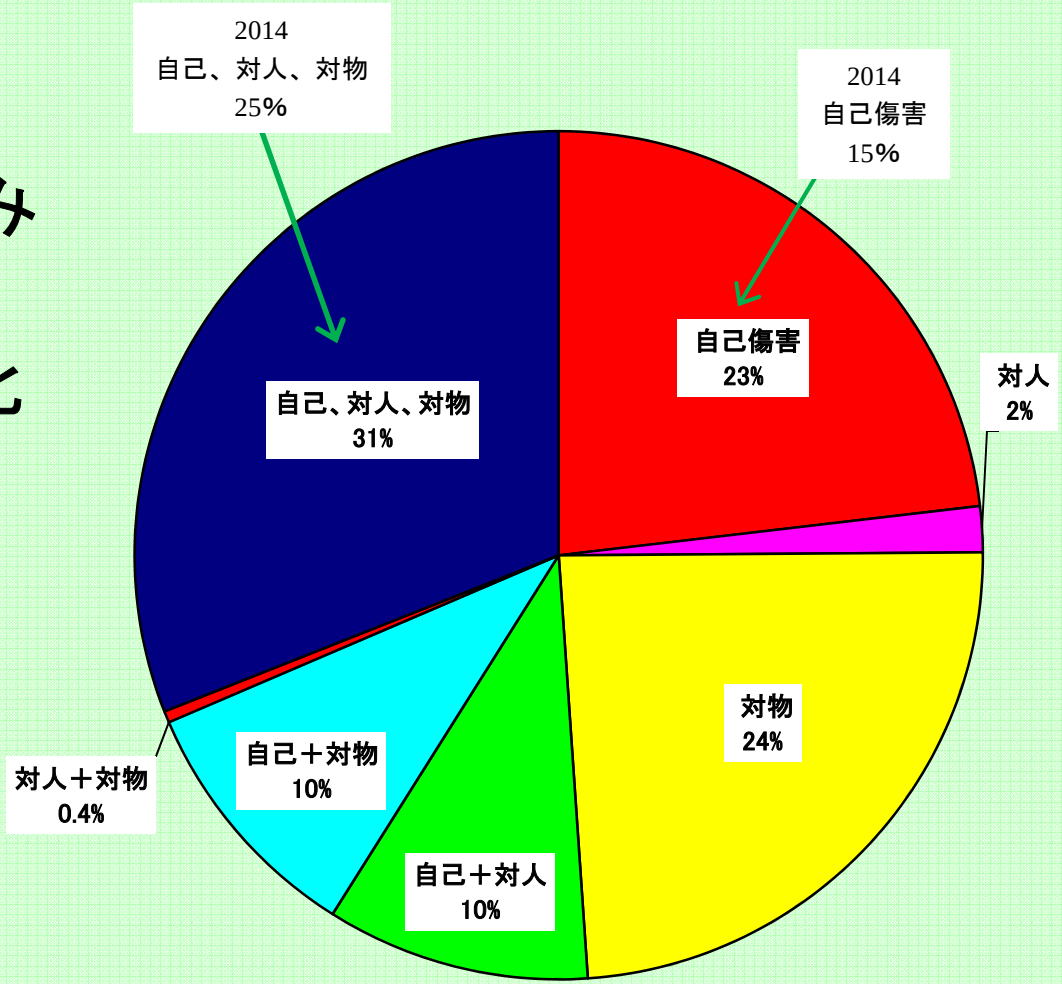


PL法については
引き続き注意喚起

【傷害保険の種別】

自己傷害・対人・対物の３点セットの増加がみられる。
また事故傷害のみの比率も増えている。

スキーでは相手を伴うこともあるので、自己、対人、対物の３点セットで!!



傷害事故報告集計

- 直接の受傷原因
- 事故の外的要因
- 事故の内的要因
- 傷害の内訳
- 用具と法的責任
- スキー指導における留意点

スキー学校での配慮事項

男女、年齢層

- 受講生の状況把握の重要性
- 他の講習との位置関係に要配慮
- 混雑していない中斜面、緩斜面は要注意
- 用具の選択、調整の指導
- 適切な保険

障害の発生が多い。

指導者の配慮事項

雪面が圧雪されていますので頭部保護の観点からも

- 指導者はヘルメット･帽子をかぶっていますか？
- 講習場所の安全に配慮していますか？
- ストックを振って合図していませんか？

尖っている方を人に向けるのは・・。

- 講習中、生徒の技術を超えた技術を使って滑っていませんか？
- 多人数を一列で滑らせていませんか？

隊列に人が飛び込んでくる可能性があります。

- リフトの正しい利用の仕方（乗り降り、セーフティーバー）やストックの安全な持ち方を指導していますか？

降車時リフトが持ち上がることを知っていますか。

- 各指導者は事故に対処できますか？
- 事故時の連絡体制を確立してありますか？

報告書：特に重要な記入箇所

㊙－３

財団法人 東京都スキー連盟会長　殿

スキー傷害事故報告書

別紙記入要領を参照のうえ、必要事項を記入し　スキー学校報告書と共に必ず提出

また、事故発生時は、負傷者１名につき１枚提出してください。
この報告書は、傷害防止対策の資料とします。他の目的には使用しません。

スキー学校認定番号　　検定共催番号

団体番号　　団体名：

実施期間：２０　　年　　月　　日（　　曜日）～２０　　年　　月　　日（　　曜日）

実施場所：　　道・県　／　　スキー場

講習総人数：　　名　　講習班数：　　班　／　１班平均：　　名

安全対策担当者氏名：

Ｑ１

傷害事故発生　　有　　無　→　ご協力ありがとうございました。

↓

傷害事故発生日：　　年　　月　　日（　　曜日）　／　天候：

報告書：特に重要な記入箇所

傷害事故発生日：　　年　　月　　日（　　曜日）　／　天候：

Q2　Q3　Q4　Q5
Q6　Q7　Q8
Q9　41→　Q10
Q11　44,58→　Q12
Q13　死亡

Q14　Q15　76→　Q16
Q17　85→　Q18
Q19　Q20　Q21　Q22
Q23　99→　Q24
100→　Q25　Q26
106→　Q27
Q28　Q29　Q30　122→　Q31　Q32
Q33　Q34
Q35
Q36

ご協力ありがとうございました。